

## 資料－２：各種辞典による「土木」の説明

### ■出版物

広辞苑 (2008)岩波書店	土木工学、また、土木工事の略。
大辞泉 (1998)小学館	①土と木。 ②「土木工事」の略。 ※土木工事：道路・鉄道・河川・橋梁・港湾などの、土石・木材・鉄材などを使ってする建設工事。
日本国語大辞典 (2006)小学館	①土と木。比喩的に、飾らない粗やで素朴なものをいう。 ②木材、鉄材、土石などを使ってする建物、道路・河川・港湾などの工事。土木工事。
広辞林 (1984)三省堂	家屋・灯台・堤防・道路・鉄道・橋・トンネル・運河などすべて木材・鉄材・土石などを使用して構成する工事。
学研国語大辞典 (1990)学研	木材・鉄材・石材・セメント・土砂などを使って、建物・道路・鉄道・河川・港湾・橋・上下水道などを作る工事。 参考：現在は、建物をつくる場合を「建築」といい、これと区別して言うことが多い。従って「土木建築」という語がかわりに用いられている。
大辞林 (2006)三省堂	①土と木。 ②土石・木材・鉄材などを使用して、道路・橋梁・鉄道・港湾・堤防・河川・上下水道などを造る建設工事の総称（従来は家屋などの建築を含んだ）。
国語辞典 (2000)集英社	土石・木材・鉄材などを使用して、建物・道路・運河などを造る工事。協議には、建物を除いていう。
新世紀ビジュアル 大辞典(2004)学研	木材・鉄・石・コンクリートなどを使って、道路・鉄道・堤防・港湾施設などをつくる工事。土木工事。
岩波国語辞典 (2011)岩波	木材・鉄材・石材などを使ってする、家屋・道路・鉄道・港湾・橋などを建設する工事。土木工事。
日本語新辞典 (2005)小学館	土石・木材・鉄材などを使ってする建物・道路・河川などの工事。土木工事。

### ■インターネット

Goo (大辞泉)	①土と木。 ②「土木工事」の略。 ※土木工事：道路・鉄道・河川・橋梁(きょうりょう)・港湾などの、土石・木材・鉄材などを使ってする建設工事。
yahoo!辞書 excite (大辞林)	①土と木。 ②土石・木材・鉄材などを使用して、道路・橋梁(きょうりょう)・鉄道・港湾・堤防・河川・上下水道などを造る建設工事の総称。〔補説〕従来は家屋などの建築を含んだ。
三省堂 web dictionary	鉄材やセメントを使って、港湾・道路・橋などを作る工事。
biglobe サーチ (大辞林 第二版)	①土と木。 ②土石・木材・鉄材などを使用して、道路・橋梁(きょうりょう)・鉄道・港湾・堤防・河川・上下水道などの建設工事の総称。〔従来は家屋などの建築を含んだ〕
kotobank	①土と木。 ②土石・木材・鉄材などを使用して、道路・橋梁(きょうりょう)・鉄道・港湾・堤防・河川・上下水道などを造る建設工事の総称。〔従来は家屋などの建築を含んだ〕 → 建築
ウィクショナリー	木材やコンクリート、鉄材、土砂などで、道路や堤防、橋などを建設すること。

## 各種辞典による「建築」の説明

### ■出版物

広辞苑(2008)岩波書店	家屋・ビルなどの建築物を造ること。普請。作事。
大辞泉(1998)小学館	家屋などの建物を、土台からつくり上げること。また、その建物やその技術・技法 ※建物：人が住んだり、物を入れたり、仕事をするために建てたもの。建築物。
日本国語大辞典(2006)小学館	土、木材、金属、石などで家屋、橋梁などを建て築くこと。また、そのようにして建てた物。作事。普請。
広辞林(1984)三省堂	家屋・倉庫・橋などを建て造ること。また、その技術
学研国語大辞典(1990)学研	〔大きな〕建物・橋など、建造物をつくる・こと(技術)。また、建てられた物。 ※建造物：建築されたもの。家屋・倉庫など。建物。
大辞林(2006)三省堂	家・橋などをたてること。また、建造物。狭義には、建築物を造ることをいう。普請。作事。 ※建造物：家屋・塔など、建造したもの。
国語辞典(2000)集英社	建物を建てること、また、その建てた物。 ※建物：家屋・倉庫などの建築物
新世紀ビジュアル大辞典(2004)学研	建物などを設計し、つくり上げること、またそのつくられたもの。
岩波国語辞典(2011)岩波	建物や橋を建てること。その建てたもの。法律では増改築や移築を含む。
日本語新辞典(2005)小学館	建物などをつくること。

### ■インターネット

Goo(大辞泉)	家屋などの建物を、土台からつくり上げること。また、その建物やその技術・技法。
yahoo!辞書 excite(大辞林)	家屋などの建物を、土台からつくり上げること。また、その建物やその技術・技法。
三省堂 web dictionary (デイリーコンサイス国語辞典)	建物などを造ること。また、造った物。
biglobe サーチ (大辞林 第二版)	家・橋などをたてること。また、建造物。狭義には、建築物を造ることをいう。普請(ふしん)。作事。
kotobank (朝日新聞、朝日新聞出版、講談社、小学館などの辞書から、用語を一度に検索できるサービス)	〈建築〉という用語は比較的新しく、1897年(明治30)に造家(ぞうか)学会が建築学会と改称してから公認されたもので、建築学者の伊東忠太がアーキテクチャーarchitecture に対応する新語として提案した。それまでは、土木建築工事一般を〈普請(ふしん)〉、建物に関する工事を〈作事(さくじ)〉と呼んでいた。
ウィクショナリー	①人間がその内部空間において活動するための構造物を、計画、設計、施工そして使用するに至るまでの行為の過程全体、あるいは一部。 ②語義1の行為によって作られた構造物。建築物。  ※語源 architecture の訳語。明治初期には「造家」という訳語が当てられ、学会名も造家学会となっていたが、伊東忠太の主張により、建築学会と改称され、architecture の訳語として定着した。ただし、それ以前は、construction の訳語として用いられていた時期もある。

■「広辞苑」における“土木”の定義の変遷

版数	土木	土木工学	土木工事	土木用機械	土木の変
初版 (1955.5)	家屋・道路・堤防・橋梁・港湾・鉄道・上下水道・河川など、すべて木材・鉄材・土石などを使用する工事。	道路・河川・鉄道・橋梁・上下水道・灯台・飛行場・空港・都市計画などの施設に関する理論及び實際を研究する工学の一部門。	—	橋梁・鉄道・港湾・河川・鉱山・道路などの土木工事に用いる機械の総称。掘鑿用・構築用・運搬用の三種に大別。	—
第二版 (1969.5)	土木工事・土木工学などの略。	道路・河川・鉄道・橋梁・上下水道・発電水力・燈台・港湾・空港・都市計画などの施設に関する理論及び實際を研究する工学の一部門。	家屋・道路・堤防・橋梁・港湾・鉄道・上下水道・河川など、すべて木材・鉄材・土石などを使用する工事。	—	—
第二版 補訂版 (1976.12)	土木工事・土木工学などの略。	道路・河川・鉄道・橋梁・上下水道・発電水力・燈台・港湾・空港・都市計画などの施設に関する理論及び實際を研究する工学の一部門。	家屋・道路・堤防・橋梁・港湾・鉄道・上下水道・河川など、すべて木材・鉄材・土石などを使用する工事。	—	—
第三版 (1983.12)	土木工事の略。	工学の一部門。道路・河川・鉄道・橋梁・上下水道・発電水力・灯台・港湾・都市計画などの施設に関する理論および實際を研究する学問。	家屋・道路・堤防・橋梁・港湾・鉄道・上下水道・河川など、すべて木材・鉄材・土石などを使用する工事。	—	—
第四版 (1991.11)	土木工事の略。	工学の一部門。道路・河川・鉄道・橋梁・上下水道・発電水力・灯台・港湾・都市計画などの施設に関する理論および實際を研究する学問。	家屋・道路・堤防・橋梁・港湾・鉄道・上下水道・河川など、すべて木材・鉄材・土石などを使用する工事。	—	—
第五版 (1998.11)	土木工学、また、土木工事の略。	工学の一部門。道路・河川・鉄道・橋梁・上下水道・発電水力・灯台・港湾・国土都市計画・環境計画・景観などの施設に関する歴史・理論および實際を研究する学問。	道路・堤防・橋梁・港湾・鉄道・上下水道・河川など、すべて木材・鉄材・土石・コンクリートなどを使用する工事。	—	明の正統帝が一四四九年、自ら瓦剌オイラートのエセン軍を迎撃、河北省土木堡で大敗し、捕虜となった事件。エセンは進んで北京城を包囲。
第六版 (2008.1)	土木工学、また、土木工事の略。	工学の一部門。道路・河川・鉄道・橋梁・上下水道・発電水力・灯台・港湾・国土都市計画・環境計画・景観などの施設に関する歴史・理論および實際を研究する学問。	道路・堤防・橋梁・港湾・鉄道・上下水道・河川など、すべて木材・鉄材・土石・コンクリートなどを使用する工事。	—	明の正統帝が一四四九年、自らオイラートのエセン軍を迎撃、河北省土木堡で大敗、捕虜となった事件。エセンは進んで北京城を包囲。

前版からの変更箇所 (出典:「広辞苑」、編者:新村出、発行所:株式会社岩波書店)

## ■土木学会（「公益社団法人への移行にあたって」で示されている土木の定義）

「土木」とは、「人々が暮らし、様々な活動を行う様々な条件や自然環境、人間環境を整えることを通して、我々の社会を飢餓と貧困に苦しむことなく安心して暮らせる社会へと改善していく総合的な営み」を意味するものであるといえよう。

とりわけわが国は、厳しい自然条件と平地における人口稠密な国土に、高度の文化的な生活と経済とを展開するため、国土と時に対峙し、時に巧みに協調する必要がある。

そして「土木」は、土木技術の開発に努力を傾注しその力を劇的に増大させて、全国各地に防災施設、港湾、鉄道、道路などの交通運輸施設、発電・エネルギー施設、上下水道といった社会基盤・システムを築き、都市や農村などの人間環境と自然の環境を改変してきた。

「土木」に従事する技術者や研究者等には、「土木」のみならず「機械」や「電気」等の幅広い技術分野の技術者や研究者等が含まれるが、本宣言の解説においては、これらを総称して「土木技術者」という言葉で代表する。

## ■古代中国における土木の成語の事例

土木という言葉が「土」と「木」から成っており、そのため単純で誰にもわかりやすく、土と木を用いて造られるものはすべて土木（またはその一部）と理解されている様子は先に国語辞典にみたところである。

ではこの言葉はいつごろからどのように用いられてきたのであろうか。大修館書店の大漢和辞典（諸橋轍次）には概略次のように記されている。

---

### 1. 家づくり。ふしん。又建築・架橋・築堤・道路開さく等の工事。

[国語・晋語九]

今土木勝、臣懼其不安人也

### 2. かざらないこと。ぶこつ。粗野。

### 3. 堡の名。その訛。

---

最初の晋語の文の解釈について、近くの高校の先生にお聞きしたところ、「今、土木まさに臣らその人を安んぜざるを、おそれるなり」と読み下し、「土木がしっかりとしておればビクビクおそれる必要はない」と解するのだそうである。紀元前の極めて昔の時代から中国では土木という成語があり、現在とほぼ同様の意味で使われていたようである。

出典：「しびるえんじにありんぐえっせい」小泉純一（大石久和）著 山海堂 1988（昭和63）年